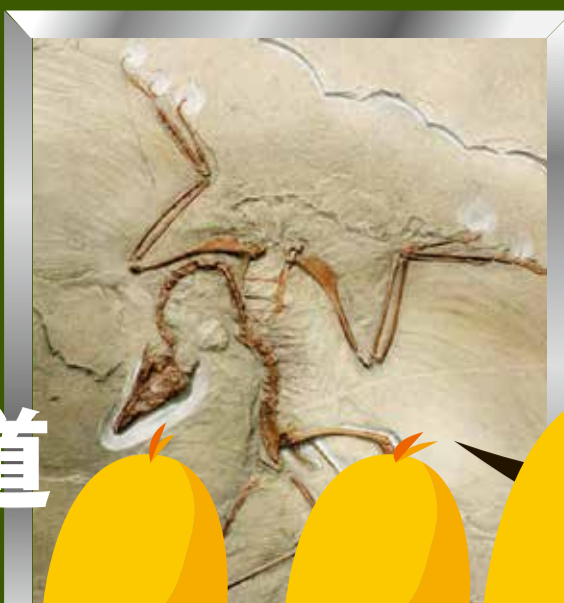


始祖鳥の  
ベルリン標本（第2標本）  
を見るぴよん御一行様



# ヒヨコのわき道

ほら、君もこっちに いらっしやい

## 第23回 世界で最も美しい名前の動物？

「学名ってご存知ですか？」

ヒトが発見し、科学的に正式に記録された生き物には、「学名」というものがつけられています。それは私たちの姓名と似たやり方で、属名（姓にあたります）と種小名（名にあたります）を組み合わせた「二名法」と呼ばれるものです。「二名法」は、もともと植物の分類の為にスウェーデンの植物学者カール・フォン・リンネ先生が300年ほど前に発表し、動物の分類にも普及させたものです。この功績で、リンネ先生は「分類学の父」と呼ばれています。

「ラテン語で命名しよう？」

生き物に名前を付けるのは、その国々で使われている言葉によって行われるわけですが、そのままでは科学的に統一できるわけが無い。では全部英語にするか、それともフランス語にするか？それでは他の言語の国にとって不公平です。そこでリンネ先生は、ヨーロッパ世界の言語の祖先に当たる「ラテン語」を使うことに決め、これを世界共通の「学名」としたのです。ヨーロッパ圏では公式な論文はラテン語で発表される伝統があります。中世の聖書もラテン語で書かれていました。ヨーロッパでは最も公平な位置づけの言葉だったのです。

さて、その二名法ですが、たとえばイヌは *Canis familiaris*（キャニス ファミリアリス）と呼びます。*Canis* とは「肉食」という意味、*familiaris* は「親しみのある」という意味です。一方、オオカミは *Canis lupus*（キャニス ループス）と呼びます。イヌとオオカミは近縁な動物であるため、属名は同じ *Canis* なのです。そして、「*lupus*」は「狼」という意味です。本当に正式には、この二名法の後ろに、発表者の名前と、発表された西暦年が付けられます。

「古典的分類の概念？」

二名法から少し話がそれますが、「属：genus」の上位には近い関係の「属」を集めた「科：family」という分類概念があり、さらに上には「目：order」・「綱：class」・「門：phylum」という分類単位を経て、「動物界 (Animal Kingdom：アニマル キングダム)」という最大級の分類概念に辿りつきます。

もう一度、界からイヌの正式な分類を示してみると下のようになります。

「動物界・脊椎動物門・哺乳綱・食肉目・イヌ科・*Canis* 属・*familiaris* 種」

これはイヌが動物界のなかでどのような位置にいるかを示す、もっとも簡潔な散文詩となっているわけです。同様に私たちヒト (*Homo sapiens*：ホモ サピエンス) については次のように書き表せます。

「動物界・脊椎動物門・哺乳綱・霊長目・ヒト科・*Homo* 属・*sapiens* 種」

これをイヌの場合と比べると、イヌとヒトは同じ哺乳綱（哺乳類）だけれども、それより細かい点では似ていないことがわかります。さらに範囲を広げてみると、動物界のイヌと植物界のアサガオは「界」のレベルで異なるため、「地球の生物」だという以外、ほとんど共通点は認められないというわけです。ただし「植物と動物の起源」まで全く異なるわけではありません。

「石版印刷ってご存知ですよ？」

石版印刷（リトグラフ）は、いわゆる版画の一種で、現在は作業のしやすい金属製の板が版に使われますが、かつては石灰岩が使われていました。

石版印刷に使うには、特に肌理（きめ）の細かい石灰岩が重宝されていました。特にドイツのゾルンホーフエンと呼ばれる地域の石灰岩は優れたもので、石版印刷以外に、建築材料としても使われたのです。

石版印刷用の石の板を切り出すには、大まかに削りだした石灰岩の堆積層の面をハンマーで叩くと、石灰岩が板状に剥がれてくるのです。この石灰岩は、約1億4千万年前のジュラ紀後期に、サンゴ礁に囲まれた海（ラグーン）に堆積したものでした。

そして時折ですが、不思議なことに、採掘した時点で、既に絵が書き込まれている石が出現するのです。それは、ジュラ紀（恐竜時代の中期）の様々な生き物の化石でした。しかも、海水の蒸発が激しく、酸素の少ないラグーンに運ばれた生物の遺骸は、驚くほどの完璧さで化石に残っていたのです。

「鳥か？ 恐竜か？」

そのゾルンホーフエンから発見された最も有名な化石に、あのダーウィン大先生が「進化論」を発表した直後、全身骨格が明らかになった「始祖鳥」があります。これは、骨だけを見ると、顎には尖った歯が生え、長い尻尾があるので、小型の恐竜にしか思えないのです。しかし全身には、石灰質の堆積で見事に残った羽毛と、両前足には飛ぶための風切り羽がずらりと並び、鳥にそっくりだったのです。

モチロンこんな動物は、現在は存在しません。「爬虫類と鳥類の中間型の動物」として、進化論を支持する決定的な証拠と評価されました。

「さて、その学名は？」

日本語では始祖鳥と呼ばれるこの動物ですが、学名はどうかと言うと？

*Archaeopteryx lithographica*（アーケオプテリクス リトグラフィカ）

語源はこうです。Archaeo（始祖）pterix（鳥）lithographica（石版印刷の）。意訳すると、「地球が石に残した、鳥の祖先のリトグラフ」というところでしょうか？わたしは、この学名が、化石の発見のきっかけとなったのが、石版印刷技術であったという背景まで、見事にその音の響きに込められた、世界で最も美しい動物の名前だと思うのです。

ご先祖さま～

